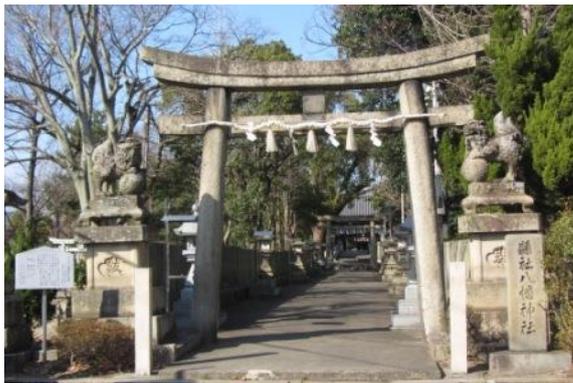


川之江八幡神社

《川之江八幡神社》



川之江町農人町

祭神は、誉田和気命、足仲彦天皇、気長足姫命。

由緒は古く、推古天皇6年（598年）、大分県の宇佐本宮より、御分霊を勧請し、金生町の切山に祀ったのが始まりと言われている。

その後、源頼義により、1064年に近くの畠山山頂に遷宮され、江戸時代に現在の地に遷宮された。嘉永4年（1851年）3度目の火災に遭い、神門を残して全焼した。現在の八幡神社は、神門を除いて、1858年に再興されたものである。

一の鳥居は、畠山から現在地に八幡神宮が奉遷されたときに、大庄屋三宅七郎右衛門家経によって献ぜられたもので、慶安4年（1651年）の建立である。一石造りの傘石が特徴で、規模、古さともに現存する鳥居としては全国で2番目のものである。

拝殿は1858年に再建された当時のもの、神門は、桃山期のものと言われる。

《土佐灯籠》



八幡神社の東側を、土佐の山内氏が参勤交代に使用していた土佐北街道が通っている。

「土佐灯籠」と呼ばれているこの灯籠は、弘化3年（1846年）13代土佐藩主山内豊照公が参勤交代の海上安全を願って納めた石灯籠である。現在拝殿前にあるもの（右の写真）は、新しく作られてもので、本来のものは、近くに安置されている（左の写真）。